

「近代産業の発展」・・・歴博展示とパネル説明文を教室に・・・

千葉県立船橋法典高等学校 竹中 理

1 実施学年及び教科・領域

全日制普通科 3 学年 5 クラス (165 名) / 日本史 A (3 単位) (令和 3 年 10 月下旬～11 月上旬実施)

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名：近代産業の発展

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

「日本史 A」では、「博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるように工夫する」とある（『高等学校学習指導要領』）。具体的には、「実物や複製品などの資料と接して知識・理解の一層の定着を図ったり、さらに具体的で多様な情報を得て歴史の考察を深めさせたりすること」とある（『高等学校学習指導要領解説』）。

また、「歴史総合」においても、「取り上げた複数の資料を組み合わせ活用し、身近な生活と関わらせて課題意識を育み、情報を読み取ったりまとめたりして資料を活用する技能を修得しつつ、考察して、その過程で生徒が見いだした疑問を問いで表現すること」が目指されている（『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説』）。

そこで、養蚕・製糸業に関する歴博展示室のパネルや写真の説明文を文字おこしたものを、授業で生徒に配付したり、パワーポイントで提示したりする。資料として用い、近代産業の発展の中で製糸業の果たした役割について、当時の人の立場に立って生徒が考えてみることを目指した。

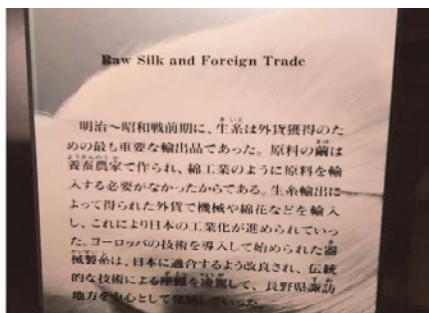
②単元の目標

- ア 近代産業が発展する様子や製糸業が果たした役割を理解する。
- イ 養蚕や製糸業が発展する様子について、資料から情報を読み取る。
- ウ 近代産業の発展の中で、製糸業の果たした役割を自分の言葉でまとめる。
- エ グループワークに積極的に取り組んだり、学んだ感想等を自分のこととして書いたりしている。

(3) 博物館との関連

①活用方法 「非来館型活用」

- ②活用資料 第 3 展示室「蚕を飼う」のコーナーのパネル説明文、展示物写真
第 5 展示室「生糸と海外貿易」のコーナーのパネル説明文、展示物写真
歴博画像データベース 「励業会社養蚕図」（錦絵コレクション H-22-1-1-420）



例) 歴博第 5 展示室

「生糸と海外貿易」のパネル説明文
次頁のように、パネル説明文については、生徒配付冊子プリントに、巻物形式のテンプレートを用いて全部で 8 つ示した。示す際には、注目して欲しい箇所や考えて欲しい箇所を空欄にしたり、下線を引いて生徒に提示した。

と外国貿易

明治～昭和戦前期に、_____は外貨獲得のための最も重要な輸出品であった。原料の繭は養蚕農家で作られ、綿工業のように原料を輸入する必要がなかったからである。

_____輸出によって得られた外貨で機械や綿花などを輸入し、これにより日本の工業化が進められていった。

「励業会社養蚕図」（錦絵コレクション H-22-1-1-420）

「養蚕に関わる一連の工程が描かれている錦絵。上州佐位郡伊与久組励行会社における養蚕業がいかに優れているかを宣伝するために描かせた錦絵である。左上の場面は、卵を落としている場面、左下から真ん中にかけては、桑の葉を蚕にとって上質なエサとなるよう加工している場面、力仕事は唯一男性。右下隅は、蚕棚。その左隣のゴザのようなものの上に蚕をのせている様子は、交尾の場面。右上は、蚕卵紙を制作している場面であり、赤い印のようなものは「商標印」であろう。」（『学校と歴博をつなぐー令和元・2年度博学連携研究員会議実践報告書ー』 萩原達也氏論文より引用）



(4) 指導観

本校は1学級30～35人で構成されている。生徒も作業学習に対して積極的に取り組む。例年、学年の2割弱の生徒が就職するため、求人票で労働条件について目にする機会も多い。この特徴を活かし、近代産業の発展過程で大きな役割を果たした製糸業や製糸工女の労働について考えさせることは、当時の労働の様子を自分ごととして捉え、興味喚起できる教材になると考えた。

また、歴博展示物のパネル説明文そのものを、授業教材として利用したいと考えた。歴博のパネル説明文は、専門用語を用いて研究成果を簡潔に表記しており、難しい場合も多い。令和元年・2年度博学連携研究員神山知徳氏は「研究者が解釈して作成した博物館展示パネルは、本来分かりやすく書かれているはずという先入観もあって、実はその解釈が意外に難しいことに意外さを感じた」と述べている（『学校と歴博をつなぐー令和元・2年度博学連携研究員会議実践報告書ー』）。そこで、各展示室の資料・写真やその他の資料を用いて教授者が情報を補うことで、むしろ説明文に無駄がないだけに日常の授業でも生徒向けの授業教材としてその内容を考えさせられるのではないか。パネル説明文を教材として利用する手法が効果的ならば、コロナ禍で来館できない博学連携のデメリットの

解消の一つの手段となる。しかも、この実践は、どの展示室やテーマでも比較的手軽に実施できるだろう。

さらに、令和元年・2年度博学連携研究員萩原達也氏が「蚕を育てる農家の仕事の学習」の実践で取り上げた「励業会社養蚕図（錦絵）」は、養蚕の過程を考えさせる資料として興味深く、授業の導入として利用してみたいと考えた。

3 指導計画（5時間。実質的に4時間相当。45分授業と50分授業が混在している。）

		時間	○学習内容 ●学習活動	□指導上の留意点 ■評価の観点
第1時間		10分	○近代産業の発展に係る基本事項 ●教科書で予習する。	□中間考査の答案返却の時間を利用する。
第2時間	導入	10分	●歴博展示室紹介ビデオを視聴する。	□歴博について紹介する。
	展開	35分	○近代産業の発展に係る基本事項 ●パワーポイントの画面で確認する。 ○生糸の重要性を学ぶ。 ●グラフとパネル説明文を読み取る。 ●生糸、繭を実際に見る。 ○養蚕について ●蚕を飼育する動画を見る。 ●「励業会社養蚕図」を配付して考察する。	□教科書とパワーポイントを確認させて補足する。 □外貨獲得の必要性を理解させる。 ■知識・理解 □動画や錦絵を見させる。 ■資料活用の技能 ■関心・意欲・態度
第3時間	導入	20分	○養蚕について ●「励業会社養蚕図」を再度配付して気づきを書かせる（2人1組）。列を指名して発言させ、読み取ったことを黒板に記す。	□パネル説明文を確認させる。 □パワーポイントを確認させる。 ■関心・意欲・態度
	展開	25分	○日本の生糸が売れた理由について ●パネル説明文とそれに係る写真やグラフから読み取る。 ○製糸業の技術革新 ●富岡製糸場の器械製糸導入。 ●諏訪地方での技術革新。	□パネル説明文を確認させる。 □パワーポイントを確認させる。 ■知識・理解 ■資料活用の技能 ■関心・意欲・態度
第4時間	導入	20分	○工女の労働について ●「あゝ野麦峠」の映画のあらすじを読んだ後、映画の予告編を視聴する。	□映像の内容を補足する。 ■関心・意欲・態度
	展開	25分	○労働条件について ●歴博の展示資料とパネル説明文を見て、労働時間・給与体系についてまとめる。 ○工女の証言について ●読み取れたことをまとめる。	□パワーポイントを確認させる。 ■知識・理解
第5時間	導入	15分	○工女の証言について ●列を指名して、読み取れたことを黒板に記入する。	□積極的に書かせる。 ■関心・意欲・態度
	展開	15分	○工女の置かれた時代背景	□工女の労働に関する意識を

		●黒板に書かれた意見を利用しながら、学習する	現代と比較させる。 ■思考・判断
まとめ	20分	○近代産業の発達と製糸業のまとめ ●文章を穴埋めする。 ●別紙レポートを記入する。	□各自で振り返り完成させる。 □レポート提出を指示する(後日)。 ■思考・判断

4 実践の概要

歴博資料や歴博展示（パネルやパネル説明文）を中心に説明する。

(1) 第2時間

前時の復習を行ったのち、画像データベースの錦絵や歴博パネルの説明文を用いた学習を行った。画像データベースの錦絵については、蚕の飼育の動画（YouTube）を見せた後、2人に1枚カラー印刷した資料を配付した。まず、資料をじっくり見させるために、「気になったところ」や「変だな」と思ったところを列毎に指名して答えさせた。アルバイトをしている生徒から着物の豪華さを見て「時給が高そう」という答えが出たことは興味深かった。そののち、教師が説明を加えた。次に、下の錦絵の3つの場面が、歴博第3展示室「近世」の「蚕を飼う」のパネルのうちどの場面に当たるかを考えさせ、列毎に指名し答えさせた。

ア



イ



ウ



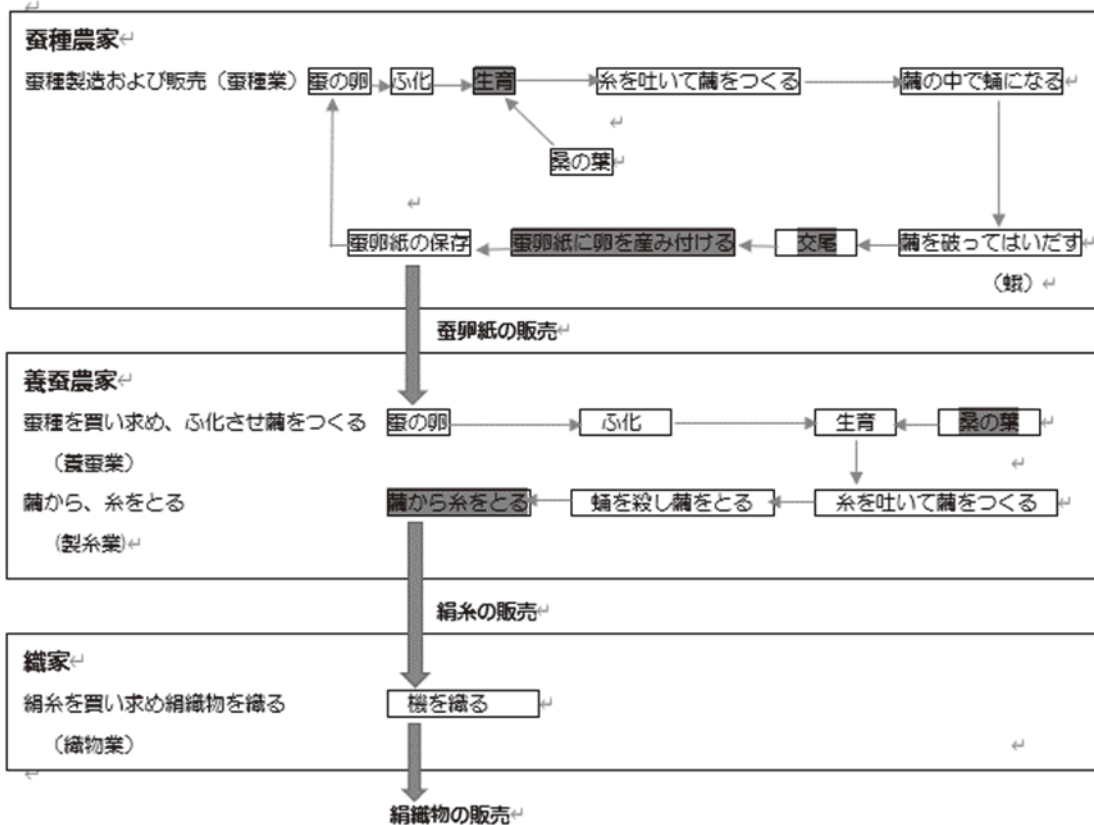
「励業会社
養蚕図」
（錦絵コレクション H-22-1-1-420）
から抜粋

《国立歴史民俗博物館第3展示室「近世」のパネル説明文》

蚕を飼う

養蚕は、良い蚕卵（蚕種）を買い入れ、山裾や沓瀬原などの荒れ地に植えた大木仕立ての桑の葉を使って蚕を育てた。生糸をとり、絹織物に仕上げ、市場へ出荷して得た現金収入は農家の生活を豊かにし、俳諧など風雅文化を楽しむ人々も増えた。蚕種商は、品種改良をすすめ、行商で良い蚕種と新しい蚕法をひろめた。養蚕技術書（蚕書）を出版し、温度計や湿度計もつくり出した。

《国立歴史民俗博物館第3展示室「近世」のパネル》



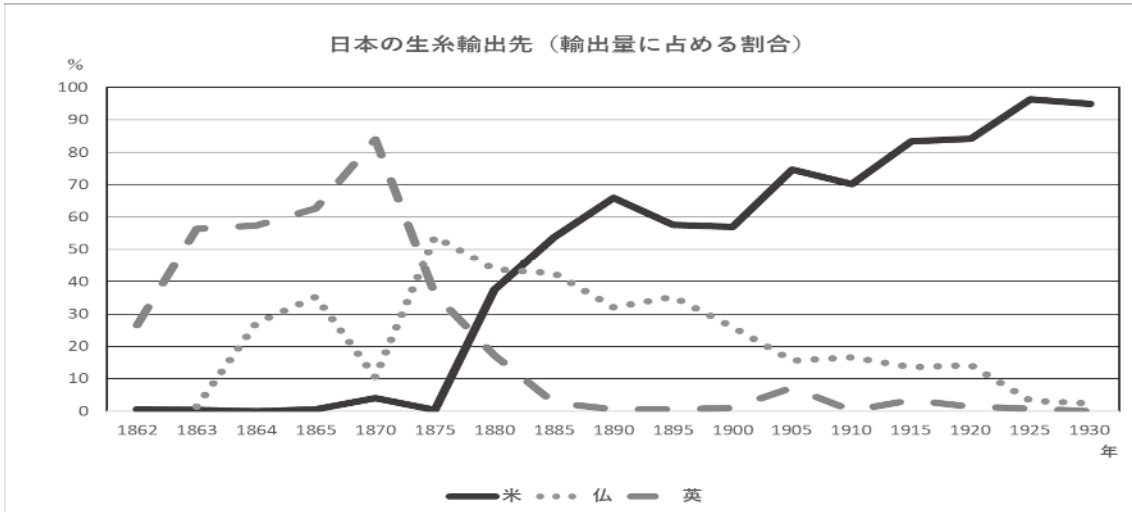
錦絵の読み取りで生徒から出た意見 (抜粋)
 「緑色の物は何か」「時給が高そう (着物が豪華なため)」「一人だけ男の人(女性が
 多い)」「棚には何があるのか」「右上の女性 (イの場面)は何をしているのか」
 「右下の女性 (アの場面)は何をしているのか」など

(2) 第3時間

世界に知られた日本の養蚕技術

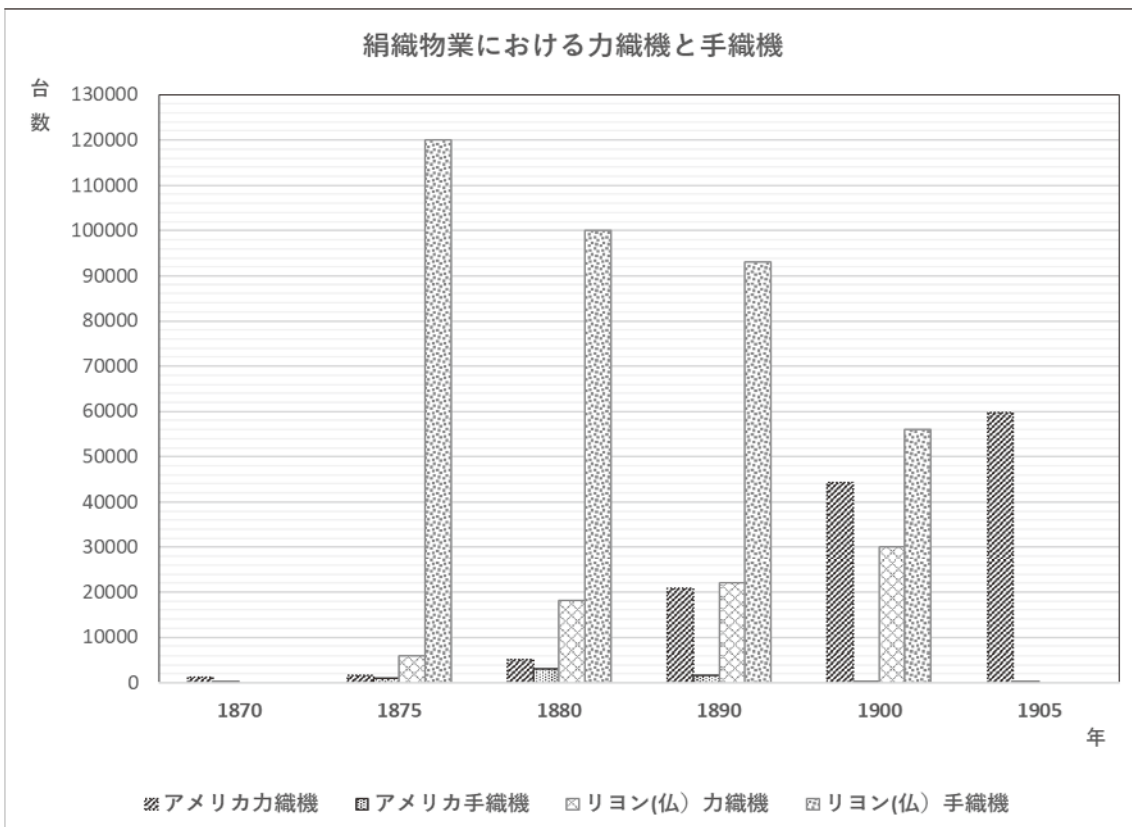
フランス養蚕地帯は、蚕の伝染病「微粒子病」対策で、健康な卵をバルカン地方
 や中東地域に求めた。大量に飼うことで質が下がるとさらに東アジアに入手経路
 を求めたが、中国では蚕種業が独立しておらず、質のよい日本蚕種が入手の対象と
 なった。そのため日本では蚕種の輸出ブームになり、全国から横浜へ大量の蚕卵紙
 が出荷され、日本の蚕書もフランスで翻訳出版された。ヨーロッパで予防法が確立
 するとブームは去り、大量の売れ残りが横浜で焼き捨てられた。こうして多大の損
 害をうけたが、アメリカ向けの生糸の輸出量が増加するにつれて再び養蚕業全体
 が活気づくことになった。

第3展示室のパネル説明文を上記の様に示した。下線部分の背景を説明するパワーポイ
 ント原稿や資料 (『近代資本主義の組織』中林真幸を利用して「日本の生糸輸出先の推移」
 を示したグラフ、「絹織物業における力織機と手織機の台数の推移」を示したグラフを作成。
 次頁参照。)を参考に考察させた。また、諏訪地方で製糸業が発達した理由を説明した。



問い
 開国してからしばらくはイギリスへの輸出が最も多かったが、_____年以降、
 アメリカへの輸出が急増し、_____年～_____年に最大輸出先となった。

幕末から明治初めに日本の蚕種や生糸がフランスで売れた背景はどこにあったとパネルの下線部分では説明されているか？読み取ってまとめてみよう。



グラフから分かること
 ・日本からアメリカへの生糸輸出が急増した1875年以降、1890年にかけてアメリカ国内では_____の台数が急増している。

(3) 第 4 時間

《国立歴史民俗博物館第 5 展示室「近代」のパネルより》

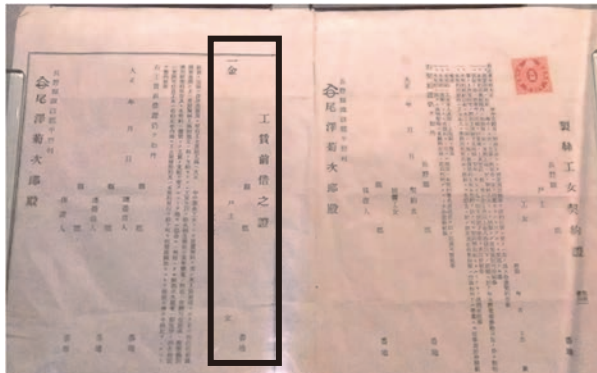
生糸の生産と工女の生活

製糸工場での労働は、時間労働や賃金の「女工哀史」として知られている。「製糸成績簿」や「帰国工女姓名簿」から窺われるように、成績をめぐる競争も激しかったし、結核などの病気で倒れた工女も少なくなかった。しかし、貧しい農村から峠を越え、工女宿に泊まりを重ねてやってきた工女たちは、厳しい労働条件を当たり前のこととして、休日の慰安や、稼いだ賃金で家計を助けることを楽しみに懸命に働いたのであった。

工女の生活

工女たちは雇主と契約書を交わし、「工場手帳」の配布を受けたが、労働環境は厳しく、なかには成績不良のため解雇される者もいた。昭和 2 年(1927)、待遇改善をめぐって、山一林組争議が起こった。

『あゝ野麦峠』のあらすじを読ませ、映画予告編を見せた後、上記パネルの下線部分に関連する内容を考えさせた。歴博第 5 展示室の「製糸工女契約証」を読み取らせたり、「等級賃金制」について説明を加えたりすることで、工女たちの置かれている労働状況を考えさせた。さらに、岡谷（諏訪地方）における明治・大正期の一般的な工場の操業期間・操業日数・労働時間・休日の大要（『飛騨の糸引き工女調査報告書』より作成）を示して、明治期と大正期の労働条件の変化の背景に工場法があったことを説明した。



「製糸工女契約証」（左写真）
太枠の部分に注目させた

「岡谷における明治・大正期の一般的な工場の操業期間 操業日数 労働時間 休日の大要」（下表）（『飛騨の糸引き工女調査報告書』より作成）

←	操業期間←	操業日数←	1日の労働時間←	休日←
明治 20 年代← (1887~1896) ←	6 月~11 月←	180 日程度←	12~14 時間← 最高 時間←	←
明治 30 年代← (1897~1906) ←	←	200 日程度← 最高 265 日← 最低 180 日←	休憩時間の定め は殆んどなし←	盆休みの 2、3 日← 祭日←
明治 40 年代← (1907~) ←	春挽← 3 月開業← 5 月閉業← 夏挽← 6 月開業← 12 月閉業←	200 日以下なし← 250 日~270 日← 大半←		
大正時代← (1912~26) ←	春挽← 3 月開業← 5 月閉業← 夏挽← 6 月開業← 12 月閉業←	250 日~260 日←	午前 6 時← ~午後 6 時← 時間← (夏期 15 時間)← 休憩← 午前午後 15 分← 昼食時 30 分←	定休日：月 日← 盆休み：3 日間← (8 月 14~16 日)← 6 月初旬 1 週間← ←

(4) 第 5 時間

工女の証言（『あゝ野麦峠』山本茂美、『女工哀史』を再考する』サンドラ・シャルルに記載されたもの）を生徒に読ませて、どんなことがわかるかを考えさせ、列毎に指名して発表させた。

工女の証言（抜粋）

Y さん（明治 24 年）
 「暮れに帰って、一年働いた金を渡したら母はその金を抱きしめて、「これで年が越せる」と声をあげて泣き出し・・・」

S さん（明治 24 年）
 「ワシは体が弱かったので、信州へ行けば米の飯で養生ができると聞いて糸ひきに出ました」

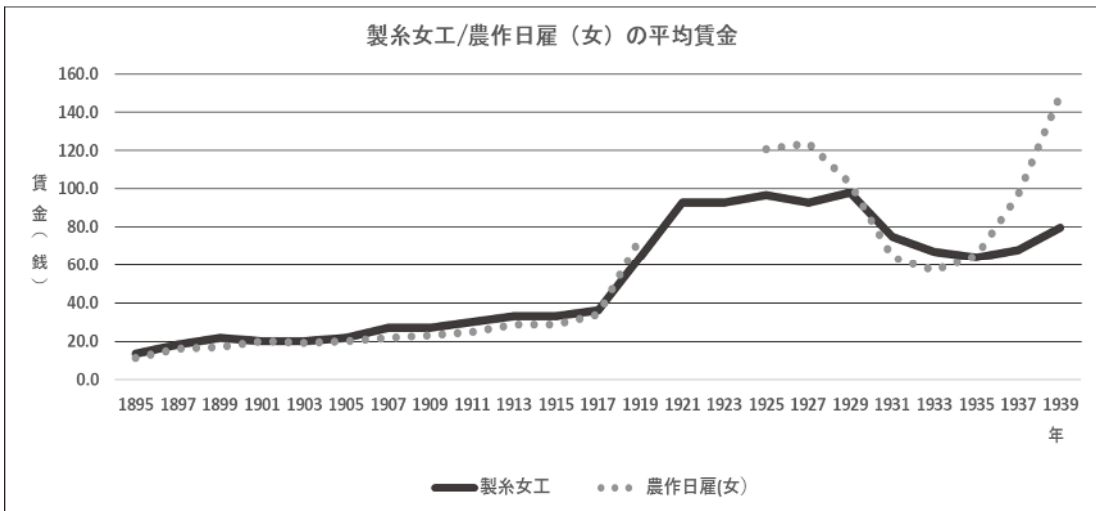
K さん（明治 35 年）
 「馴れたら罰以外はそんなに苦しいということもなかった。（中略）1 年目 10 円、2 年目 50 円、多いときは 100 円以上貰った」

M さん（大正 6 年～大正 11 年）
 「製糸工場が一番その頃良かったの。（中略）それより他にないだもの。」

K. T さん（昭和 4 年～昭和 12 年）
 「ご飯を自分の好きなように盛って食べてね。美味しかった！」

K. Y さん（昭和 5 年～）
 「お風呂に毎晩入りました」

また、授業のまとめとして、工女たちの置かれた背景（厳しい労働条件を当たり前のことと思えた理由）を、下の資料などもパワーポイントで示して考えさせた。こののち、生徒たちに後日提出するレポートを課した（工女として製糸業に働きに出た女性の言葉を読んだ感想、近代産業の発展やそれを支えた製糸業について学んだ感想などを記すもの）。



総括	病気	検査	賃金	労働	食事
行ってよかった	冷遇	泣いた	他より低い	苦しい	まずい
90	40	90	0	3	0
普通	普通	普通	普通	普通	普通
10	50	10	30	75	10
否	厚遇	楽	高い	楽	うまい
0	10	0	70	22	90

飛騨の糸ひきの後日調査 (単位%)

上記グラフ
 『女工哀史』を再考する』サンドラ・シャルルより作成。
 (グラフが切れているところはデータ欠如)

左表
 『あゝ野麦峠』山本茂美より引用。
 (著者が取材した 580 名の工女の話から任意に推定大別したものとのこと)

5 成果と課題

(1) 成果

①パネル展示やパネル説明文の活用

萩原達也氏は、「パネル説明文の多くは成人向けに書かれていて、最も利用機会の多い小学生にとっては難解なところが多い」と述べている（『学校と歴博をつなぐ 令和元・2年度博学連携研究会議実践報告書』2021年）。

高校生にとってはどうだっただろうか。神山知徳氏は「展示パネルの読み取り作業と、その根拠となる展示物との関連付けは、教科書の叙述通りにはいかない」（『学校と歴博をつなぐ 令和元・2年度博学連携研究会議実践報告書』2021年）と述べている。

今回の実践では、次のことがわかった。博物館に展示されている資料だけでは情報に限りがあり、生徒自身が読み取って解釈するとなると確かに厳しいところもある。しかし、示し方を工夫すれば、むしろ教科書を読むよりも、興味をもってパネル説明文を読もうとすることがわかった。特に、補助資料を示しながらパネル説明文を提示した場合に顕著であった。説明文の空欄や背景を考えさせたりすると、生徒はクイズ的な要素も加わるため積極的に取り組んだ。また、映画の予告編（『あゝ野麦峠』）を視聴させた後でパネル説明文の背景を考えさせたり、資料を用いて説明したりした場合も効果的であった。教室の中で教師がポイントを示してパネルやその説明文を見させることで、興味を持って取り組めるのではないかと思われる。（今回の第3時間で実践した「日本産糸の需要の高まり」の項目で複数のパネル説明文とグラフを比較して読み取らせた前掲の4(2)）

コロナ禍や遠方等で来館が困難な状況でも、歴博のパネルの画像やパネル説明文を教室に持ち込む手法は、補助資料を用いることで生徒に理解を深めさせられ、教室でも比較的手軽に利用できるのではないかと思われる。

〈レポート記載の事後アンケート〉

いつもとは異なり、国立歴史民俗博物館(佐倉)の展示資料や館蔵資料を用いて授業を行いました。次から一つ選んでください。[理解が深まった 変わらなかった わかりにくかった]

結果

理解深まる	84%	変わらない	16%	わかりにくい	0%
-------	-----	-------	-----	--------	----

〈生徒の感想〉

教科書よりも資料がたくさんあって、パネル説明文のわかりやすかった。

②歴博デジタルコレクションの活用

養蚕が描かれた明治時代の錦絵の読み取りを高校生が行った場合、どのような読み取りをするのか。自由な読み取りについては、興味を持って取り組む者が多かった。しかし、蚕の飼育動画（YouTubeの動画）を見せたのち、養蚕のどの場面のものかを錦絵から読み取らせ、歴博展示のパネルの場面から選ぶ作業については少しとまどっていた生徒もいた（当初、細部まで鮮明な錦絵の用意ができなかったことが一番の原因と考えられる）。また、萩原達也氏の実践のように実際に蚕の飼育をしたり、蚕そのものを目の前にしているのとは異なり、飼育動画だけでは生徒への印象付けも薄かったのだろう。

しかし、錦絵を自由に読み取り気になったことを発言させる作業については、歴史の得意不得意にかかわらず興味を持って取り組んでいたようである。今後も歴博の豊富な画像データを吟味・活用して、生徒の意欲を喚起させていきたい。

〈生徒の感想〉

1番はじめの絵をくぼられて、戻っていた事を書く。
みたいのが探すの楽しかったし、友達と話し合っ
てる楽しかった事楽しかったです!

「労働社会養蚕図で当時の作業風景を
見ることができ、そこから色々の考察をすることもできて良かったです。

③製糸業について自分ごととして考えられたか。

ア 当時工女として製糸業に働きに出た女性の言葉（前掲の4(4)参照)を読んだ感想

今では考えられない生活を昔の人はそれを当たり前として一日一日を暮らしていたということに驚きを隠せませんでした。

今ではとてつもなくブランクで劣悪な環境であるが、当時の女性達にとっては、飯もおいしく毎日風呂にも入れ休日もとれるという好待遇であるため、メイドスター茶言は見られなかった。なので、本当にすごい人なんだと思いました。それに比べて自分は恵まれた環境で生活しているんだと感じました。

当時では待遇がよく、女性は働かずに行くのが当たり前だとされていたので、自分でもその時代にいたら、当時の女性たちのように受けとめて働いていたんだらうかと思うと、時代の流れや善悪の繰り返しが人間にも変わってしまっているのではないかと感じました。

今の時代の人は、工女の仕事は大変で過酷だと思ってくれるけど、当時工女として働いていた人は厳しい労働条件を当たり前だと、私にはそれほど貧困状況が広がっていたという事がわかりました。私も工女として働いていたら厳しい労働条件が当たり前だと感じてしまうだろうなと思います。

イ 近代産業の発展やそれを支えた製糸業について学んだ感想（※は就職者のもの）

逃げたことばかりは、病気になるまで働き、ブランクが何となく女の足踏みにと思えば、私だったら、かきようがりで逃げた方がいい、自殺打ってしまってもいいなと思いたい。

※ 製糸業でよく成功した女性もいました。そのおかげで近代化が進んで機械化が進んで生産率が上がり、外貨も入ってきて...と良いように進んだので、厳しい仕事だからとちろん良い糸も作れて成功した人々もいました。私にとっては女です。

男性が命を張って国を守っていたのは学んできたけど、あんな女性の労働はしなかった。この時代に男性と同じくらい命を張って国内を建てた。た女性たちがいたからこの今の日本があるんだなと思いました。

当時の工女達は低賃金、長時間労働で働いて命を絶たすのせいで、悲しいと思うことを考えると、今の自分達はとても恵まれているんだなと思う。

アの感想では、製糸業の工女の立場をふまえて考えられているものも多く見られた。今と違って厳しい労働条件の中で働いていた工女について、生徒の意識が揺さぶられ、「自分だったらどうだったんだろうか」と考えられていたようである。

また、イの感想でも、今の自分たちの立場との比較がなされているものも多く見られたので、興味喚起が僅かでも図れたと思われる。

(2) 課題

パネル説明文について、資料活用することはできたが、解説だけになってしまったところもあった。また、歴博のパネル説明文をなぞるだけにならないようにするために、歴博展示の背景を生徒に理解させるための資料の用意に時間がかかった。

今回の実践で近代産業の発展について学習するにあたり、博学連携会議の中では製糸業だけに絞るのは果たしてよいのかという意見も頂戴した。歴博の第5展示室のパネル説明文の中で利用しやすいものということで絞ったのだが、次回実践することがあれば他の展示も取り入れて改善していきたい。

また、歴博を見学し（もしくは歴博の展示物やパネル説明文を見て）、生徒自らが疑問を持って解釈し、課題設定できるようになる探究的な活動が、これからは求められる。ゆえに、教師側は生徒自身に自由に見学させることはもちろんのこと、興味を持つきっかけとなるような歴博展示の見方や展示の意図（ここから見ると違う世界が広がるなど）を今まで以上に自ら学び、提示できるようにならないといけないと感じた。

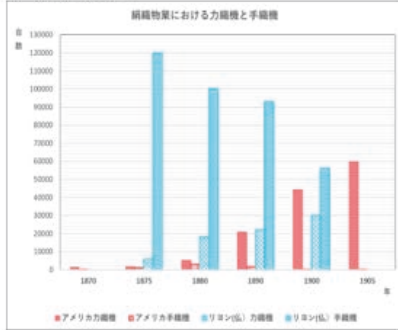
〈参考文献〉

- 岡谷蚕糸博物館 『シルク岡谷 製糸業の歴史』 2017年
萩原達也 「蚕を育てる農家の仕事の学習-「励行会社養蚕図(錦絵)と蚕卵紙商標印を活用して-」
- 神山知徳 「近世日本の外交と貿易 ～歴博第3展示室～」
(国立歴史民俗博物館『学校と歴博をつなぐ ー令和元・2年度博学連携研究員会議実践報告書』2021年)
- サンドラ・シャル 『『女工哀史』を再考するー失われた女性の声を求めて』2020年
中林真幸 『近代資本主義の組織 製糸業の発展における取引の統治と生産の構造』2003年
- 飛驒市教育委員会 『飛驒の糸引き工女調査報告書』2021年
山本茂美 『あゝ野麦峠 ある製糸工女哀史』1990年角川文庫

参考 生徒への配付資料（冊子にして配付）
表紙



問7 グラフを参考に答えよ。



グラフから分かること

・日本からアメリカへの生糸輸出が急増した 1875 年以降、1890 年にかけてアメリカ国内では _____ の台数が急増している。

フランス絹織物業
力織機の普及が速く、1900 年代に至るまで _____ による生産が急激に増え、
不同一な生糸を原料として用い、存在量も豊富 糸を束めた。
→ 絹織が手作業→生糸織造の不均一部分を取り除く作業を機械人に委ねた。

アメリカ絹織物業
機力や生産に優れる _____ な生糸ではなく、_____ で機織機や力織機になじみやす
く、 _____ な _____ としての生糸を大量に需要した。
→糸が明れると力織機を停止させればならなくなり、_____ が下がる。
→アメリカで需要の高い生糸は、デニール検査法で「十四中」のもの、
(9000mの長さで1gの重さの糸の太さが「1デニール」)
※日本の生糸は、_____

《国立歴史民俗博物館第5展示室「近代」のパネル説明文》
① 全国に製糸工場において、さらには東京製糸として生産された生糸の多くは、海外に輸出された。生糸は各地での生産地から遠隔地が _____ の過程を経た後に製糸の主要機関に輸出され、内洋の製糸会社によって製糸場から国内に向けて輸出された。益しい情状改善の工場の増えた生糸は、途の太平洋を越えて、_____ 出た生糸・リボン・ストッキング、_____、_____、_____ などに使われた。

② **白絹糸・絹織物**
生糸は白い糸のほかに、ときに製糸は絹織物の生糸や織物に用いられ、輸出された。絹織物は絹織物から作られ、この絹織物は _____ 織物に、白絹糸は _____ 織物にも使われた。

- ① 右の写真は何と呼ばれている帽子？
- ② 下の絵・写真を参考に、上のパネルの説明文の空欄に当てはまる語を考えて入れて下さい。



シルクハット
写真

明治の農村の女性の風情

(4) 製糸業の技術革新・・・輸出に際えるために

《国立歴史民俗博物館第5展示室「近代」のパネルより》
ヨーロッパの技術を導入して改良された _____ 製糸法は、日本に適合するよう改良され、伝統的な技術による _____ を継承して、 _____ 糸の中心として発展していった。

度緯製糸と筒緯製糸
度緯製糸：糸繰りをするときに、片手で糸繰を押し、もう一方の手で糸を巻き取る方法。
筒緯製糸：糸繰りをするときに、糸繰を回すことを自動化した方法。動力をそなえたものを「機械」と区別した。

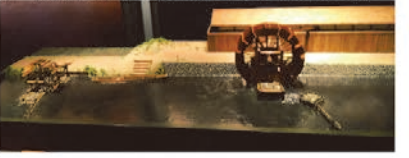
参考：製糸の行程・・・工女が手に関わる作業が _____ の4つ
生糸→絞直→ _____ → _____ → _____ →仕上げ→検査→包装→出荷
・ _____ 表面を行い、 _____ を合わせて1本の生糸にした。
糸繰に巻き取る作業（次で数個がわかる）
・ _____ ？小枠に巻き取られた生糸を大枠に巻き取る作業。切れている糸があれば巻きなおす（再繰式）

問8 1872年フランスの技術を導入し、機織を動力とした筒緯製糸の製糸機工場の敷設が、

この工場建設の目的
目的： _____

工女の労働条件（和田英『富岡日記』より）・・・ブラックではない
労働時間：原簿 _____ 時間 _____ 分（日の出から日没時までの7時～16時20分休憩が、朝30分昼60分午後15分、季節による差異あり）
出勤まで _____ がなく、 _____ が原因だったから
休日： _____ 週、年々平均10日、夏10日、別に年6日ほどの祭日があり。
給料：1等工女（8割5分 一人につき5兩とり）⇒1円75銭
2等工女（8割 一人につき4兩とり）⇒1円50銭
3等工女（7割8分 一人につき3兩とり）⇒1円
食料：月々3日は赤のめしに _____ 輪廻させ、それ以外は朝食が汁に漬かり、昼食が煮物、夕食が干物など

問9 長野県諏訪地方は、アメリカ向けの生糸輸出に応じてどのような変容をしたか？



① 上の複製写真から、動力源として何を利用したことがわかるか。
_____ 水車（水力）

② 中山社の創業（1875年）
・ 深沢式繰糸機の発明： _____ と _____ の先進的な特徴をミックス独自の繰糸機を開発し、 _____ 戦後のほどとどを _____、絹を西産にして _____
= _____
・ 深沢式繰糸法の発明： _____ 一定量の生糸から取れる生糸の割合や撚率をよくなる
※新しい繰糸機と繰糸法が生糸の _____

③ 品質の統一
・ 製糸協会の設立：いくつもの製糸家が集まり、自分の工場で作産した生糸を _____ 製糸に集めて _____ を明瞭とした。
(例 原料産の共同購入、共同内産の購入)



※ _____ ⇒ 買入れた高品質を商標により保証した

※ こうして、諏訪地方は製糸業の中心地となり、各地から工女等が出稼ぎにくることになった。
※ のちに、アメリカで力織機の高効率化が進み、より品質の高い生糸が求められると、製糸会社加盟の有力な製糸家は、品質管理を徹底、且国内産による出産を放棄して、原料産から高品質までの一貫生産を行う

